
転生の糸使い

1億36度

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生の糸使い

【著者名】

ZZマーク

26638Y

【作者名】

1億36度

【あらすじ】

死んで転生のありがちな小説です、よろしければ読んでください。

おやかの転生（前書き）

良ければ読んでください。あまり厳しい感想は出来れば控えてください。

俺は普通の学生だったそして一次小説にのめり込み「転生したいな～」が俺の口癖となっていた、そんなある日俺は町を歩いていたふと胸が痛いと思ったら、目の前が真っ暗になつた、ふと気がつくと真っ白な空間に居た驚いてあたりを見回すと若いイケメンが紅茶を啜つていた。

「おや、起き
たのかい。」

青年が聞いてくるからしゃべらうとするがでなかつた、
「やつした」とかと驚いていると

「ああ、今の君
は魂だからしゃべれないんだ」

「魂? と

「いつ事は俺死んだのか?……もしかして転生できるのか俺?」

「ああ、やつだよ察しが良くて助かるよ、ああ、やつやつチートも
上げよ!」

やつかじやあ「ああ、やつやつ道具とかにしてくれよ楽だ

からね。」

それならまず俺の身体に全て遠き理想郷を組み込んでくれ、それとヒエヒエの実と無限に糸を出す道具をくれああ糸は自由に操れるようにそれと絶対切れないようにしてくれ。

ふむ、それだけかい?」

ああ、それだけだ。

「それなら転生しててくれ、ああ、そういう君氣に入つたから何個も世界を回れるようにしてあげよ!」

ありがとよ神様それじゃ また今度

ああ、

そして神様がゆびを振ると俺の意識はブラックアウトしていった。

主人公設定

前世では夢もなくただ生きているだけだったので後悔も無かつたが急性心不全で死んだ事により神に転生させてもらえることになつたため人生を楽しむをモットーに生きる」とした。

主人公スペック Fate風

一般人スペック

筋力 B +

筋力 D

耐久

B
耐久 D

敏捷 B
敏捷 C

幸運 C
幸運 C

魔力 B
魔力 C

気 B
気 C

転生前名前NOデータ 転生

後名前リー・シンクー

外見 まんまアレン・

ウォーカーただし身長は175cmある。

スキル

氷の

身体 A

ありとあらゆる物理攻撃が効かないが力ナズチになるという呪いがかかっているがそれも全て遠き理想郷の能力で書き消されている、なおアオキジの技も使える。

魅力 C

異性にちょっと氣

になる人などと思われるレベルである。

— A

精神の統

いかなる状況でも精神が乱れる事はないと言う効果をもつ神のプレゼント

宝具

アリアドネーの糸玉 A

見た目は13個の空

色の水晶玉、13個でひとつのがひとつ壊れてもすぐに元にもどるしかし全部壊されると元に戻るのに丸一日かかる、能力は絶対切れない糸を無限に出せ自由自在に操れる、なお0、0001秒に100mの糸を100万本出せる。

全

て遠き理想郷「偽」 A

不老不死の効果を持ち呪いを撥ね除け傷をいやす効果を持つていてるが神が作った偽物であるため真

名解放が出来ない。

神が作りし黒き「」 EX

真名を開放し

なければしそう出来ないさらに単発で一日に一回限りの使用となるが真名解放すると絶対突破の概念を持つバスケットボール程の大きさの黒い球体を自分の手前に呼び出しそれを殴る事によつて放つ事が出来るその威力は絶大で太陽がダイヤモンドの塊でも突き抜ける。射程は500m程である。「神が全て遠き理想郷の真名解放が出来ぬかわりに用意した武具である」

あなたの誕生（後書き）

感想お待ちしております。

「ijiは何処の世界だ？」

ああ、光が見えてきたそう思いながら田を開けると田の前にはレンガや木でできた町で俺の目の前には知らないおっさんがいるそのおっさんが口を開いたと思ったら

「ガキ、てめえは俺に買われて少年奴隸剣闘士になるんだ。」

と言った少年奴隸剣闘士？なんか聞いたことがあるな、どつかのキヤラがそんな感じだつたようなそんなことを考えていると

「着いたそこそこがてめえのねぐらだ中の奴と仲良くしろよてめえのパートナーになるんだからな。」

「パートナー？どんな人なのだろ？」「うか中に入つてみると褐色の肌をした少年が話しかけてきて

「よお、俺はジャック・ラカント言つんだお前が俺のパートナーだろよひしくな。」

「その口、ijiネギまの世界か——という俺の魂の叫びがあがつた。」

「それからはジャックと一緒にいろんな敵と戦つたがジャックが何回も死にかけたため棄権してジャックの看病をしたりしているとジャックが段々強くなつてゆきそ

これから5年後には原作同様のチートの塊が出来上がっていた、いやーどんどんムキムキになってそれに正比例するように背がのびつていくからだんだんとなれてきてこれが普通だと勘違いしてたんだよな、今思つと頭がどうかしてたんだな。

まあそれは置いといて、神がくれたものをチェックしてると、とんでもない物が入つてたんだよ、なんなんだよ「神が作りし黒き弓」て思つてると使用方法と威力が頭ん中にはいつてきたんだよ、まあ真名解放しないと使えないらしいから使わないけどな。

まあそれは置いといて、神がくれたものをチェックしてると、とんでもない物が入つてたんだよ、なんなんだよ「神が作りし黒き弓」て思つてると使用方法と威力が頭ん中にはいつてきたんだよ、まあ真名解放しないと使えないらしいから使わないけどな。

あと俺魔

法使えないんだよだから感卦法と戦いの練習ばっかしてたんだよ、そしたらいつの間にか拳と蹴りの速度が半端ない物になつてんだよ、拳圧とか飛ばせるよ」みたいな。

ああそうそう今傭兵してるんだ

けどさ俺たちが解放奴隸になつた時つて二人ともに異名が付いてたんだよな、ラカンのは「死なない男」に「不死身バカ」とかついてたんだけどさ俺の異名つて「氷の王」「悪夢の聖職者」なんてついてるんだよな……感想を言うとなんだこの厨一病おかしいだろ後者はまあいい、だつて今のおれの服装が黒の教団の十字架が赤く染まつたの來てるからな、気持ちはわかるよ、でも前者がおかしいだろなんだ氷の王つて確かに身体が氷で出来るけどさこれ聞いた時俺首吊らうとしたからなラカンに止められたが、まあそんなこんながあつて今はあいつが持つてくる依頼を待つてるんだけどな。

「おい、シンク 依頼が入つたき
たぜ、」

おお、噂をすればなん

とやいひだ。

「で、どんな依頼だ？」

「おお、翼をぶつ倒してくれだそりだ」

原

作イベントかよ、まあここにさどな。

「で、用意は？」

「おお、弱点を聞いて用意してきたぜ二人分」

「なんで二人分何だ？」

「ああ、めんどくさかつたからだ」

「こんな事を背後にドーンとぶつ効果音でも付せんつた態度でいふんだからな。

「はあ～～」

「なんだよ、俺たち

無敵ゾンビが居たら敵なしだからいいじゃねえか

ああやつば

こいつ黒鹿だ、まあいいや

7

「いや、やつをどうが。」

ପାଠ୍ୟକର୍ତ୍ତା

そして時飛んで紅き翼の奴らのが見下ろせる崖の上

おお、鍋
くつとるよ、うまそうだな、なんて思つてたらいきなりラカンが剣
を投げやがつた、あ、あ鍋吹き飛んじまつたよ、勿体ねー。

おお、
鍋

「お食事中失礼ツ俺たちは無敵

の傭兵ジャック・ラカンと

お前俺に名乗れといふのがよ! 田代がおまかせ! みんな! しゃー無ー名乗るか。

お前俺に名乗れという

「リー・シンク

「せひみじみ面譲じみひせ」

紅き翼（詠春）S.i.d.e

なんだこいつらは、こきなり出てきて私たちの鍋を粗末にしおつて食べ物を粗末にするやつは

「斬る」

そう言つて男が投げてきた剣を斬り飛ばしながらジャック・ラカンと名乗つた方に斬りかかる

「おお、あんた本当にええなちょっとまたね・か

「やるのなら真面目にして…」

「うだな、なら情報その一生真面目な剣士はお色気に弱い」

いつもながら男はカプセルを取り出すそして匕首に投げてきた、何だこれはと想つてみると中から精靈種の女性が出てきた、つい目を瞑つて

「何の」れしき、心頭滅却すれば火もすずs ポス」

「こいつはとともに意識がブランクアウトしてしまつた。

Sideアウト

ジャックSide

「ホイッいつちょ上がり」

と俺が言つてると雷が落ちてきたから避けた、そしたら赤毛の奴が出てきて

「こいつは俺の相手だ邪魔すんじゃ

ねえぞ」

といいやがつた、ハハいい

ね、やあひざねえかつとその前に

「シンク 俺は」こ

つとやうあうから後頼んだが

よし、こ

れで思い残すことほねえな

みつしゃ赤毛「こから離れよひじやねえか」

赤毛は一つ返事で

「おひよ。」

と返したきた、そんじやあ行くか。

Sideアウト

ああ、走つてきやがつた、

「ああ～紅き翼の皆

さん俺が相手するから我こそはつて人は「

そこまでい

つて言つのを止めた、なんでもつ立つてんだよ、アル・ビレオ
イマジゼクトしかも、

もう俺の頭上に黒い球体が発生してゐるしー。ちくしょう

「気が早いな、おい！」

そう言ひに避けるともうそこにはゼクトがいて

「燃える天空」

おい、それ広範囲殲滅魔法だらう
がと心の中で突っ込みながら能力を使って

「氷河時代「アイスエイジ」」

全部凍らせる！

！ よしなんとかなつたと思つたら頭の上にまた黒い球体が
以下無限ループ

はあはあ、疲れるこいつらの魔力と
かどうなつてんだよと思ひながらラカンの方向をみると倒れていた。

「やられどるし……ああもう

こいはひかせてもらうぞ」

と言ひつつアリアード
ネーの糸玉を取り出し全員を縛り走りながら感卦法をかけラカンの方に走つていく

「じゃあな赤

毛のあんちゃん

「そい

つ起きたら挑戦待つてゐるといってくれよ

なにを約束したんだこいつ?

「ああ、わかったよ」

返事をして俺はラカンをつれて隠れ家に変える。

翌日

昨日ラカンに伝言を伝えてから俺は寝た。そして朝起きたらラカンが「挑戦に入つてくる」と言い出でつたので今は暇である。

「バカがいなくなると結構暇だな、 そだ修行でもするか」

問題ないので能力の練習をすることにした。

と言つても格闘は

「まずヒヒヒ

工の実つて攻撃力はあまりないけど氷だから物質が出せるんだよな……じゃあ身体から氷を出すつて出来るのか？」

「とりあえずやってみることにした。

結果出来た全身のいたるところから氷が出せたが、自分が氷の重さに耐えれず50メートルしかのばせなかつた、ただ悪魔の氷なので鉄位の強度はあるみたいだつた。

「ふむ、 じゃあ次は糸で物を作つて氷で武装させれるかだな。」

「ひらもとうあえずや

つてみた、こちらは問題がなかつた。

この二つが出来たことで戦略が広がつたそして糸などの精度を上agar事を修行内容にした。

夕方

ジャックから手紙が来て。

「しばら

く、あちにいてあいつらに挑戦しまくるから気にすんな」

と手

紙に書いていたので

「まあ、あいつの事だし大丈夫だろ」

そして俺は寝ることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6638y/>

転生の糸使い

2011年11月26日19時48分発行